研究分野	授業科目名	科目責任者
組織培養・免疫系分野	分子病原微生物学特論Ⅰ・Ⅲ	齊藤 峰輝

開講年次	共通／専攻／選択	単位数	
1,2,3,4	特論Ⅰ：必須専攻, 特論Ⅲ：選択	特論Ⅰ：4（2/年）, 特論Ⅲ：1/年	

目的

（1）研究対象の病原体に関する最新の知識を修得する。
（2）科学研究に必要な仮説の立て方とそれを証明する方法，結果の解釈について一連の流れを体得する。
（3）研究論文を正しく理解して，内容を簡潔かつ正確にプレゼンテーションするスキルを身につける。

授業到達目標

（1）権威ある医学雑誌に掲載された論文を読み，各種実験手法とその適用について理解できる。
（2）当該研究に至る背景と仮説の立て方，証明する実験計画，結果の解釈と考察を簡潔にまとめることができる。
（3）論文を批判的に読み，疑問点と改善点を列挙して簡潔にまとめることができる。
（4）次に行うべき研究について提言をまとめ，（1）～（4）をわかりやすくプレゼンテーションすることができる。

授業計画

回数	月日	曜日	時間	担当者	区分 1	区分 2	授業内容
1	毎週	月	17:00-18:00	堺 立也	講義	[抄読会]	Fields Virology（6th ed.）の抄読，それに関する論文の紹介とディスカッションを行う。 [場所:本館棟 6 階カンファレンス室 12]
2	毎週	火	17:00-18:00	内藤 忠相	講義	[抄読会]	ワクチン開発に関する最新の重要文献をレビューする。 [場所:本館棟 6 階カンファレンス室 12]
3	毎週	水	17:00-18:00	齊藤 峰輝	講義	[抄読会]	ウイルス学に関する最新の重要文献をレビューする。 [場所:本館棟 6 階カンファレンス室 12]

評価方法

【特論Ⅰ】
（1）1年間※で 30 時間出席し，科目責任者から履修手帳に出席印をもらい，提出する。
（2）1年間※で，論文紹介または症例発表を 2 回行い，その要約 2 編を提出する。
【特論Ⅲ】
（1）1年間※で 15 時間出席し，科目責任者から履修手帳に出席印をもらい，提出する。
（2）1年間※で，論文紹介または症例発表を 2 回行い，その要約 2 編を提出する。
ただし，特論Ⅰ・Ⅱで紹介したものとは異なる論文（症例）であること。
特論ⅠとⅢの同年度での重複受講は不可とする。
※1～3年生は 2 月末まで，4年生は 11 月末までの講義を当該年度の単位認定の対象とする。

課題（レポート等）に対するフィードバック

発表時にはディスカッションを通して理解度を確認する。また自らの研究との関連についても議論する。

教科書

ISBN-9781451105636, Fields virology 6th Edition, David M. Knipe et al., Lippincott Williams & Wilkins, 2013

参考書

別冊「医学のあゆみ」グローバル感染症最前線-NTDs の先へ，北　潔（編集），医歯薬出版株式会社, 2017

準備学習（予習・復習等）

（1）講義ごとに取り上げる文献を熟読し，教科書の該当部分にも目を通しておく（約 1 時間）。
（2）討論（ディスカッション）の内容について記録（サマリー）を残すこと（約 1 時間）。

修了認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

過去の研究をベースに，未解決の問題点を整理して新しい知見を得るための仮説を立て，適切な実験によってその検証をし，仮説の有効性を確かめるという一連の過程を学ぶことで，科学的思考法と研究者としての専門的能力を身につける。

注意事項・メッセージ

一連の演習は，研究者に必要な知識，情報収集力，相手に伝える力，英語力，情報の新規性・正確性を判断する力を身につけるために行うものである。常にこのことを意識して研鑽に努めること。